



農事普及だより

(9月号 平成28年9月1日～9月30日)

【発行】鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北地域農政局地域農林水産部農業普及振興室
【編集】西北地域農政局地域農林水産部農業普及振興室



気象

(平成28年8月24日 仙台管区気象台発表 東北地方3か月予報より)
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
気温は、高い確率50%です。



水稲

平年より刈取時期が早くなることが予想されます。
ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、適期刈取に努めましょう。

1. 出穂の状況

今年の管内全体の出穂最盛期(50%になった日)は8月5日で平年より1日早まった。

(表1) 市町別の出穂状況

市町名	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	8/1	8/3	8/5	8/6	早1日	8/10	8/10
中泊町	8/1	8/2	8/4	8/5	早1日	8/11	8/10
板柳町	8/2	8/4	8/6	8/7	早1日	8/10	8/10
鶴田町	8/1	8/3	8/5	8/6	早1日	8/10	8/9
つがる市	8/2	8/3	8/4	8/5	早1日	8/8	8/9
鱈ヶ沢町	7/30	8/1	8/4	8/5	早1日	8/8	8/9
深浦町	7/31	7/31	8/5	8/5	差なし	8/10	8/9
西北全体	8/1	8/3	8/5	8/6	早1日	8/10	8/10

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%に達した月日である。

2. 刈取時期の判断方法

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、刈取りが遅れると、茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。

登熟の進みには、ほ場差、地域間差があるので、表2、表3を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

(表2) 出穂後積算気温からみた刈取適期の期間

まっしぐら	出穂後積算気温で960～1,200℃
つがるロマン	出穂後積算気温で960～1,150℃
青天の霹靂	出穂後積算気温で900～1,100℃

(表3) ほ場ごとの刈取開始期の目安

籾の黄化程度	ほ場全体の籾が、90%程度黄化した時期
枝梗の黄化程度	枝梗の2/3程度が黄化した時期
青未熟粒の混入割合	青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
籾水分	25～26%程度まで減少した時期

〈語句説明〉

- ・出穂後積算気温：出穂日の翌日から毎日の平均気温を合計した値

3. 出穂後積算気温からみた刈取時期の予想(8月19日現在)

主な品種ごとの出穂後積算気温でみた刈取適期の予想は表4～6のとおりである。

(表4) 出穂後積算気温でみた「まっしぐら」刈取適期の予想

出穂日	960℃到達予想日	1,200℃到達予想日
8月1日	9月12日(42)	9月25日(55)
8月4日	9月16日(43)	9月30日(57)
8月7日	9月20日(44)	10月5日(59)
8月10日	9月25日(46)	10月10日(61)

(表5) 出穂後積算気温でみた「つがるロマン」刈取適期の予想

出穂日	960℃到達予想日	1,150℃到達予想日
8月1日	9月12日(42)	9月22日(52)
8月4日	9月16日(43)	9月27日(54)
8月7日	9月20日(44)	10月2日(56)
8月10日	9月25日(46)	10月7日(58)

(表6) 出穂後積算気温でみた「青天の霹靂」刈取適期の予想

出穂日	900℃到達予想日	1,100℃到達予想日
8月1日	9月9日(39)	9月19日(49)
8月4日	9月13日(40)	9月24日(51)
8月7日	9月17日(41)	9月29日(53)
8月10日	9月21日(42)	10月3日(54)

注1) 五所川原アメダス値を使用、8月18日までは本年値、それ以降は平年値を用いて算出した。

注2) ()内は、出穂後の日数。

注3) 出穂後積算気温でみた目安であり、実際に刈取るには水田の状況を見ながら総合的に判断する。



りんご

十分味をのせた良食味のりんごを適期に収穫しましょう!

ふじの肥大(県生育観測ほ:板柳町高増)は、8月21日現在、横径7.3cmで、平年(7.1cm)を上回っている。

8月20日現在、つがるの熟度は、りんご研究所(黒石市)で、糖度は高く、着色指数はやや高く、硬度及びヨード反応指数はやや低く、酸度は低い。総合的にみて熟度の進みは平年より進んでいる。

1. つがるの収穫

- (1) 熟度は進んでおり、収穫始めは平年より3日程度早い9月7日頃からと見込まれる。
- (2) 熟期が揃わないので、着色、地色、硬さなどを見て2～3回に分けて収穫する。
- (3) 収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりが早くなるので、速やかに冷蔵施設に搬入する。

2. 中・晩生種の管理

- (1) 「樹上選果」の徹底
収穫時まで随時、肥大の劣るものや果形の悪いもの、病害虫被害果、日焼け果などの障害果を摘み取る。

(2) 着色手入れ

早くからの強い葉摘みは、鮮やかな色が着かないばかりか食味の低下につながるため、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始める。

ア 平年の実施時期

品 種	除袋時期	着色手入れ
早生ふじ	—	9月15日～10月1日
紅玉	—	9月15日～30日
ジョナゴールド	9月15日～25日	9月25日～10月5日
陸奥	9月25日～10月5日	10月5日～10日
ふじ(有袋)	9月20日～10月5日	10月5日～25日
//(無袋)	—	9月30日～10月25日

イ 除袋時の注意

- ・外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。その後果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時(晴れた日が3～5日続いた後)に内袋をはぐ。
- ・二度はぎ用二重袋の内袋をはぐ場合又は一度はぎ用二重袋をはぐ場合は、日焼けを防ぐため、曇天日又は晴天日の10時～14時(果面の表面温度が高くなる日中)とする。

ウ 摘葉剤「ジョンカラープロ」を利用する場合

- ・「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前(9月中旬頃)に500倍液を10a当たり400～700㍓散布する。展着剤ブラボー1,000倍を加えると効果が高まり、安定する。
- ・散布後40日間は収穫できないので注意する。
- ・散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、極端な高温に合うと過剰落葉となるので、できるだけ温暖(平均気温:17～19℃)で好天が予想される時に散布する。

3. 病害虫防除

(1) すす斑病・すす点病対策

例年発生が多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に、「9月15日頃」にオーソサイド水和剤800倍、ストライド顆粒水和剤1,500倍、トップジンM水和剤1,500倍、ベンレート水和剤3,000倍のいずれかを果実に十分にかかると特別散布する。

なお、早生種に飛散しないよう注意する。

(2) 黒星病対策

黒星病の発生している園地では、病原菌の密度を下げるために、葉や果実、つる(果柄)の被害を摘み取り、土中に埋めるなど適正に処分する。

また、発生が多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃に行うすす斑病・すす点病の特別散布の際は、基準薬剤の中から、オーソサイド水和剤800倍又はストライド顆粒水和剤1,500倍を選択する。

(3) モモシクイガ対策

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切な処置をする。
また、もも・なし・日本すもも・ブルーン・マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

4. 風水害対策

(1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りに行う。

(2) 事後対策

- ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。
- イ 枝が裂けた場合、回復可能なものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで接着する。
- ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。
- エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

※農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —

美味しいりんごを届けよう！ 今年もやります！ 樹上選果と「すぐりもぎ」！

ぶどう

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けましょう！

1. 収穫時期の判定

(1) スチューベン

ア 着色始めは8月20日（鶴田町境）で平年より2日早かった。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなど風味がのったものを収穫する。

(2) その他の品種

キャンベル・アーリーは糖度が上がらなくても良く着色し、また、黄色品種のナイヤガラ、ポートランドは果皮色の変化が少ないため外観上から収穫時期を判定するのは難しい。

収穫に当たっては、必ず糖度を測定し、味を確かめる。

○平年の収穫時期と収穫時の目安

品 種	収穫時期	果皮色	糖度 (%)
ポ ー ト ラ ン ド	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サニールージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ナ イ ヤ ガ ラ	9月下旬	黄白	15
ス チ ュ ー ベ ン	10月上中旬	紫黒	18

2. 収穫時の留意事項

- (1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。
- (2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- (3) 収穫した果実は病害虫の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

3. スチューベンの灰色かび病対策

- (1) 長期貯蔵向けのスチューベンを対象にフルーツセイバー1,500倍を8月下旬～9月上旬に10a当たり250㍈散布する。
- (2) 単用で使用するとともに、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。
- (3) 使用時期は、収穫7日前までである。

※農業はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



野菜



気温の低下に伴い裂果の発生が多くなるので、追肥は控え保温に努めましょう。

1. 裂果対策

- (1) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、最終果房のトマトーン処理後は、追肥を控えめに行い、最終果房の着果後30日間は定期的にかん水する。ただし、かん水量は常に一定（1.5㍈/株）とし、かん水間隔を長めにする。
- (2) 夜温が15℃を下回る場合は保温に努める。

2. エスレリル処理

(1) 10月中旬以降は温度が急激に低下し着色が進まないため、9月下旬から白熟期になった果房ごとにエスレリル10を散布して着色の促進を図る。

散布時期	倍数	散布液量	散布回数
9月25日～10月5日	300倍	5ml/1果房	1果房につき1回

(2) 散布時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしないよう注意する。

3. 病害虫防除

灰色かび病、疫病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、タバコガ類、オンシツコナジラミの防除を行う。

大豆

病害虫防除をしっかり行いましょう。

1. 病害虫防除

9月上旬までに、紫斑病、マメシンクイガの防除を行う。

2. その他の管理

- (1) ほ場の滞水で収穫作業に支障がないよう、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜き取りを収穫前までに行う。

小麦

ほ場整備、排水対策をしっかり行いましょう。

1. ほ場整備

転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きょや弾丸暗きょを施工し、融雪水排水対策を行う。
は種精度、出芽率、除草剤の効果向上のため、ロータリーで砕土して、ていねいに整地する。

2. 施肥

基肥は成分で、10a当たり窒素7～8kg、リン酸12～15kg、カリ9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。
また、土壌pH6.0以下では生育が悪くなるので石灰資材を施用し、土壌酸度を矯正する。特に転換畑では積極的に行う。

3. 種子消毒

雪腐病対策として、種子消毒を行う。薬剤は前年の雪腐病発生状況に合わせて選択する。

4. は種期

は種適期は9月15～25日であり、は種量はドリル播きで10a当たり8～10kgを基準に、は種時期、地力に合わせて増減する。

5. 雑草防除

- (1) 除草剤は発生する雑草の種類、生育に合わせて、効果が出るように使用する。
- (2) 茎葉処理剤は、雑草の種類、発生状況に合わせて使用する。

ストップ！ 農作業事故
秋の農作業安全運動実施中！
期間：平成28年8月15日～10月31日

- 高齢者の事故防止
- 機械の転落・転倒防止
- 農業機械への巻き込まれ防止
- 高所作業中の事故防止

花き

温度管理を徹底し、高品質な花きの生産に努めましょう。



1. 今後の作業

- (1) 採苗用の親株を伏せ込む苗床は、伏せ込みの2週間前に、1a当たり完熟堆肥を250～300kg、窒素、りん酸、カリを成分で0.5～1.0kg程度施用し、深耕する。
健苗を確保するため、伏せ込みは10月下旬までに日当たりと排水の良いハウスで行う。
- (2) 秋ギク「神馬」の11月出荷栽培では、消灯後45～55日間で開花するので、出荷時期に合わせて消灯日を決める。
品質向上のために再電照を行う。また、開花を揃えるためには消灯前から温度を少しづつ上げて、消灯から発蕾まで夜温18～20℃を確保する。

2. 病害虫防除

白さび病、アザミウマ類、ハダニ類、ヤガ類等の発生に注意し、適期に防除する。



1. 今後の作業

- (1) 抑制作型では、日中25℃を超えないよう換気に努め、夜温が13℃を下回るようになったら、ハウスを閉めて保温を開始する。発蕾期以降は、固く仕上げるため、かん水を控えめにする。
- (2) 越冬作型では、9月中旬までには種を行い、11月上旬頃までに定植できるようにする。発芽までは、20～25℃、発芽後は15℃前後を目標に管理し、種子が乾燥しないように注意する。

2. 病害虫防除

灰色かび病、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

- 使用した農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

薬剤散布は適期に！

町農業委員会では、毎年6月中旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や放任園等の発生防止に取り組んでいます。
放任園発生防止のため、農地の貸借や売買については、町農業委員会へ早めにご相談ください。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター「豊明館」となり
午前9時から午後5時 ☎ 22-2111（役場産業観光課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～
URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>